

科目名	相談援助の理論と方法 I							
科目名(英)	logic and method of consultation I							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	山下琢也	
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	福祉施設において相談員として 勤務	
対象学科・学年	社会福祉科・1年生							
授業概要	相談援助や福祉業務を实践する上で基本となり、踏まえなければならない考え方や理論についてを学ぶ。							
授業形式	講義:	○		演習:		実習:		
						実技:		
						※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○					MSWの業務指針を踏まえつつ、MSWの持つ役割について説明することができる。		
		○				MSWの実践において求められるスキルについて説明することができる。		
		○				MSWの活動のフィールドである医療業界の仕組み、システムについて説明することができる。		
		○				診療保険制度、地域包括ケアシステムについての状況について説明することができる。		
			○			自身の身近な身の周りの課題として捉え、真摯に向き合うことができる。		
テキスト・教材 参考図書	パワーポイント、配布資料、参考図書:中央法規 新社会福祉士養成講座7「相談援助の理論と方法 I」							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	オリエンテーション						
	2	ソーシャルワーカーの役割について					関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	3	相談援助とは(相談援助の枠組み・構成要素・展開過程)①					関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	4	相談援助とは(相談援助の枠組み・構成要素・展開過程)②					関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	5	相談援助とは(相談援助の枠組み・構成要素・展開過程)③					関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	6	相談援助とは(相談援助の枠組み・構成要素・展開過程)④					関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	7	ソーシャルワークの目的と価値①					関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	8	ソーシャルワークの目的と価値②					関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	9	ソーシャルワークの方法①					関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	10	ソーシャルワークの方法②					関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	11	ソーシャルワークにおける面接・面談について					関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	12	ソーシャルワークを取り巻く現在の課題について①					関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	13	ソーシャルワークを取り巻く現在の課題について②					関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	14	ソーシャルワークを取り巻く現在の課題について③					関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
15	まとめ					関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業に出席するのではなく、「参加」し、積極的な姿勢についてを評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	○	◎				80%	
	発表・授業参加度				◎		20%	
履修上の注意	毎回の授業でパソコン(パワーポイント)を使用します。可能であれば様々な動画を通じて考える機会を設けたいと思いますので、動画放映の準備をお願いします。出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えません。							

科目名	GCB I					
科目名(英)	Global Citizen Basic I					
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	山下 琢也	
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	社会福祉科1年					
授業概要	自立しながらも互いに協力し合うことで世界が成り立っていることを認識し、恵まれた人生を過ごしていることに感謝し地域、国家の発展に貢献する人材を育成する					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
				○		自ら考える、気づく。積極的に参加(話し合い、発表)する。日常生活で実践する。
テキスト・教材 参考図書	・グローバルシティズンベーシック I (学生用テキスト)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンを目指す			振り返りレポートの作成	
	2	「協働」の態度を持った学生生活			振り返りレポートの作成	
	3	人間関係の構築に向けて～モラル・ルール・マナーの重要性～			振り返りレポートの作成	
	4	マナーの本質①			振り返りレポートの作成	
	5	マナーの本質②			振り返りレポートの作成	
	6	グローバルシティズンとしての日常			振り返りレポートの作成	
	7	グローバルシティズンとしての目標			振り返りレポートの作成	
	8	グローバルシティズンとしての「志」に向けて			振り返りレポートの作成	
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	(1)感想レポート実施(8回) (2)最終回に全体に向けた発表					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	レポート作成・発表				◎	
履修上の注意	出席が6回以上無い場合は単位取得ができない。					

科目名	レクリエーション I						
科目名(英)	recreation						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	添田譲二		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科 1年						
授業概要	現代社会の中で、余暇やレクリエーションのもつ意味も、単なる気晴らしではなく充実した人生づくりの基盤の一つへと変化してきている。レクリエーションは、福祉社会の中での役割として生活の自立を促し人生の充実を図ると同時に協調性や思いやりなど人間形成にも影響力をもっていると考えている。このような中でレクリエーションがもつプラスの価値をどのような支援体制で展開すればよいかを解説する。そこで、遊びを体験しながら遊びの必要性や支援方法を理解することを目標に授業を展開していく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					レクリエーションの必要性を理解して説明できるようになる	
		○		○		レクリエーションの多くの素材を覚えて支援することができる	
		○		○		コミュニケーションの手段の一つとしてレクリエーションの素材を使い分けることができる	
テキスト・教材 参考図書	楽しい遊びの商店街 プリント資料【配付資料】						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	レクリエーションの本質ならびに支援について(理論)					
	2	レクリエーションの素材の体験① (アイスブレーキングの方法)					
	3	レクリエーションの素材の体験② (仲間づくりのためのゲーム)					
	4	高齢者を支える地域のきずなづくりとレクリエーション(理論)					
	5	レクリエーションの素材の体験③ (身近な物でつくるクラフト)					
	6	レクリエーションの素材の体験④ (身近な物を使っての遊び)					
	7	コミュニケーションと信頼関係づくり(理論)					
	8	レクリエーションの素材の体験⑤ (良好な集団づくりゲーム)					
	9	レクリエーションの素材の体験⑥ (意欲を引き出す遊び)					
	10	企画をするために必要なことについて(理論)					
	11	グループワーク・トレーニング① (レクリエーション演習)					
	12	グループワーク・トレーニング② (レクリエーション演習)					
	13	レクリエーションを対象者に合わせるアレンジ(理論)					
	14	レクリエーションの素材の体験⑦ (折り紙の世界)					
15	レクリエーション I のまとめ(理論)						
評価方法	授業中の課題に対して個人として取り組む。 グループを単位として、レクリエーション支援の企画をする。 授業の中で学んだレクリエーション情報をアレンジして、演習を通して提供する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	実技演習	○	○		◎		50%
	授業中の課題(個人)				○		30%
授業中の課題(グループ)	○	◎		○		20%	
履修上の注意	心にゆとりをもち、さわやかな笑顔で受講すること。 授業内容を楽しむ気持ちをもって受講すること。 目を輝かせ動作はハツラツとすること。						

科目名	音楽表現(指導法)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	村上京子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科 1年生						
授業概要	①ピアノ・音楽に親しみ、これまで培った表現力を活かして、お披露目の成功を目指して努力する。 ②歌唱や合唱を通して社会人としての基礎力(表現力、チームワーク、理解力、向上心)を磨く。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					歌唱表現: 歌の歌詞を理解し、相手に伝わるよう表情豊かに歌うことができる。	
					○	自主実行力: 他者からの助言がなくても自分で解説し、練習することができる。	
				○		楽典理解: 音楽の基礎となる楽典を理解し、楽譜を正確に読むことができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1日目(授業中より取り組んでいる課題曲の合唱・合奏の練習)			授業時に練習した楽曲のリハーサルをしておく		
	2	1日目(授業中より取り組んでいる課題曲の合唱・合奏の練習)			授業時に練習した楽曲のリハーサルをしておく		
	3	1日目(授業中より取り組んでいる課題曲の合唱・合奏の練習)			授業時に練習した楽曲のリハーサルをしておく		
	4	1日目(授業中より取り組んでいる課題曲の合唱・合奏の練習)			授業時に練習した楽曲のリハーサルをしておく		
	5	2日目(授業中より取り組んでいる課題曲の合唱・合奏の練習)			授業時に練習した楽曲のリハーサルをしておく		
	6	2日目(練習した内容を保育園にてお披露目)					
	7	2日目(練習した内容を保育園にてお披露目)					
	8	総合しての振り返り					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		歌唱表現	ピアノ表現	楽典理解	演奏表現	自主実行力	評価割合
	実技(歌唱・楽器演奏)	◎					80%
	参加状況				◎		20%
履修上の注意	①遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	音楽表現 I						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	亀谷 菜		
実施年度	2019年	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科 1年生						
授業概要	①ピアノに親しみ、2年次までの2年間で表現力、テクニックを磨き、修了コンサートの成功を目指して努力する。 ②音楽の基本的な理解と音楽活動での様々な楽器の習得を目指します。 ③歌唱や合唱を通して社会人としての基礎力(表現力、チームワーク、理解力、向上心)を磨きます。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	歌唱表現	ピアノ表現	演奏技術	音楽的理解	自己実行力		
	○						
		○					
			○				
				○			
目標	歌唱表現: 歌の歌詞を理解し、相手に伝わるよう表情豊かに歌うことができる。 ピアノ表現: 楽譜に書かれている音を自分のものにし、表現することができる。 演奏技術: 自主練習によってテクニックを磨き、技術を習得することができる。 楽典理解: 音楽の基礎となる楽典を理解し、楽譜を正確に読むことができる。 自主実行力: 他者からの助言がなくても自分で解読し、練習することができる。						
テキスト・教材 参考図書	近畿大学九州短期大学声楽教本、ピアノ教本・みんなのコーラス						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	音楽基礎知識(楽譜の読み方、指番号、鍵盤の位置等) 歌唱(おはながわらった、先生とおもだち)			授業内容を復習しておくこと		
	2	No1(5指の練習)、歌唱(こりのうた、こいのぼり、朧月夜)、合唱(ピリーヴ)			授業内容を復習しておくこと		
	3	No2(4分の3拍子の説明)、歌唱(めだかの学校、とけいのうた、花)、合唱(ピリーヴ)			授業内容を復習しておくこと		
	4	No3(左右違う動き、音符の種類説明)、歌唱(かたつむり、あめふりくまのこ)、合唱(ピリーヴ)			授業内容を復習しておくこと		
	5	No4(8分音符の説明)、歌唱(はじめの一步、しゃぼん玉、背比べ)、合唱(ピリーヴ)			授業内容を復習しておくこと		
	6	No6(コード奏の説明C、F、G、G7)、歌唱(パレード、トマト、茶摘み)、合唱(ピリーヴ)			授業内容を復習しておくこと		
	7	No5音階(指くりの練習)、No7(歌い弾き練習)、歌唱(どんな色が好き、海)、合唱(ピリーヴ)			授業内容を復習しておくこと		
	8	No8(歌い弾きの練習)、歌唱(うたえんぱん、水遊び、夏は来ぬ)、合唱(ピリーヴ)			授業内容を復習しておくこと		
	9	No9(付点四分音符と八分音符のリズム)、歌唱(とんぼのめがね、たなばたさま、バラが咲いた)、合唱(ピリーヴ)			授業内容を復習しておくこと		
	10	No9(左右の違うリズムに慣れる)、歌唱(山の音楽家、おうま)、合唱(ピリーヴ)			授業内容を復習しておくこと		
	11	No10(メロディーをなめらかに演奏)、歌唱(おつかいありさん、はをみがきましよう)、合唱(さんぼ)			授業内容を復習しておくこと		
	12	No10(テンポアップを目標に)、歌唱(あくしゅでこんにちは、ありさんのおはなし)、合唱(さんぼ)			授業内容を復習しておくこと		
	13	No11(8分の6拍子の説明)、歌唱(バスごっこ、ぞうさん)、合唱(さんぼ)			授業内容を復習しておくこと、No5ハ長調音階小テスト実施		
	14	No11(拍子感をもって演奏する)、歌唱(お手を洗いましょう、かわいいかくれんぼ)、合唱(さんぼ)			授業内容を復習しておくこと		
	15	No12(アルペルティ・バスに慣れる)、歌唱(おもちゃのチャチャチャ、赤い鳥小鳥、上を向いて歩こう)、合唱(さんぼ)			授業内容を復習しておくこと		
	16	No12(クレッシェンド、ディミヌエンドの説明)、歌唱(やぎさんゆうびん、おかたづけ)、合唱(さんぼ)、※スクーリング練習開始(歌、合奏、ベル)			授業内容を復習しておくこと		
	17	No13(8分+4分のリズムパターンに慣れる)、歌唱(1年生になったら、犬のおまわりさん、浜辺の歌)、合唱(さんぼ)			授業内容を復習しておくこと		
	18	No13(左右違うリズムに慣れる)、歌唱(アイアイ、おべんとう)、合唱(さんぼ)			授業内容を復習しておくこと		
	19	No14(8分の6拍子のリズム)、歌唱(ともだち讃歌、いとまき)、合唱(さんぼ)			授業内容を復習しておくこと		
	20	No14(曲想をつけて練習)、歌唱(線路は続くよどこまでも、手をたたきましょう)、合唱(さんぼ)			授業内容を復習しておくこと		
	21	No14(テンポアップを目標に)、歌唱(ふしぎなポケット、おんまほみんな)、合唱(さんぼ)			授業内容を復習しておくこと		
	22	試験リハーサル、歌唱(おはなし、おかえりのうた)、合唱(さんぼ)			授業内容を復習しておくこと		
	23	試験ピアノ: バイエル66 歌唱: ありさんのおはなし、バスごっこ			授業内容を復習しておくこと		
24	夏休み宿題ピアノ練習、スクーリング練習			授業内容を復習しておくこと			
評価方法	①授業の中で小テストを1回実施する。②定期試験を実施する(ピアノ、歌唱) 成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		歌唱表現	ピアノ表現	楽典理解	演奏表現	自主実行力	評価割合
	実技試験(ピアノ、歌唱)	◎	◎	○			80%
	課題進度					◎	10%
	小テスト			○	◎		10%
履修上の注意	出席が17回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	教育心理学SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川原 ゆり		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科 1年						
授業概要	「人間がどのように学習をするのか」、「またどのように人間関係を構築するのか」、その課程を経て振り返ることでの実情について学ぶことを目指す。実際には「車椅子体験」「アイマスク体験」を通して経験することで、先述した内容について実践することで、新たに学んだ事柄について触れて共有することで、学習の課程と人間関係の構築方法について理解し、実際の保育現場で活用可能な工夫や援助方法について知識を深める。最終的には、子どもたちへ伝えることを想定しての取り組みを行う。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		グループにおいて積極的な協力を実践することができる。	
		○				各年令における発達・能力を把握した上で、その状況に応じた骨子案を計画することができる。	
	○					積極的に協力することで、実際の運動会に向けての運営を実践することができる。	
	○						
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目 「学ぶ」「伝える」とは(教育的見地より)、計画の立案				事前に「教育の意義」について調べておくこと	
	2	1日目 アイマスク体験を実施				アイマスクを着用を使用する状況での行動状況、支援方法について事前に確認しておく	
	3	1日目 アイマスク体験を実施・振り返り				実体験の内容を自己・グループ内で振り返り、その内容を踏まえて子どもたちへ伝えることを想定・準備す	
	4	1日目 実体験した体験から、同じ内容を子どもたちへ伝えることをシミュレーションする。					
	5	2日目 車椅子体験を実施				車椅子を使用する状況での行動状況、支援方法について事前に確認しておく	
	6	2日目 車椅子体験を実施・振り返り				実体験の内容を自己・グループ内で振り返り、その内容を踏まえて子どもたちへ伝えることを想定・準備す	
	7	2日目 実体験した体験から、同じ内容を子どもたちへ伝えることをシミュレーションする。					
	8	2日目 発表に対しての振り返り・反省・講評					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況				◎		20%
	レポート作成		○				30%
	発表への準備と実践の状況	○			○		50%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	現代社会と福祉 I						
科目名(英)	current social and welfare I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原 ゆり		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科1年生						
授業概要	福祉とは幸福追求の活動を指す。一昔前は福祉と言えば「問題を抱える人」に対する救済活動と考えられていたが、今は「全ての人の幸福追求」に結びつく活動を全て含むという考え方に変化している。一方で、現代社会は日々変化し続け進歩発展しているが、その陰で様々な矛盾や歪みも生じている。この授業では、現代の日本が抱える社会の実態を「人間らしさ」と照らし合わせて考えて行くこと、世の中のしくみ、法律、制度、しきたり、慣習などは長い年月を通して人類後エとして作られてきたことを学び、今後の社会がどのようにあるべきなのかを考える機会とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○		△			社会で起きているニュースや事象に関心を持ち、新聞を読んで理解することができる。	
	○		△			社会の問題を分析することができる(何が問題なのか、原因は何か等)。	
	○		△			問題の解決策は何かを考えることができる。	
	○		△			法律や制度、歴史等を理解し、自分の知識を広げることができ、考察力が向上する。	
○		△			自分の考えを分かりやすく発表することができる。		
テキスト・教材 参考図書	新聞記事とそれに関連する文献、ネットの情報						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	福祉とは何かについて考える					
	2	アイマスク・車いす体験				次回に向けて新聞記事を準備する。	
	3	新聞記事から深堀り!!				新聞記事で気になったものを要約し、自分の考えを書く	
	4	新聞記事から深堀り!!				新聞記事で気になったものを要約し、自分の考えを書く	
	5	新聞記事から深堀り!!				新聞記事で気になったものを要約し、自分の考えを書く	
	6	新聞記事から深堀り!!				新聞記事で気になったものを要約し、自分の考えを書く	
	7	新聞記事から深堀り!!				新聞記事で気になったものを要約し、自分の考えを書く	
	8	新聞記事から深堀り!!				新聞記事で気になったものを要約し、自分の考えを書く	
	9	新聞記事から深堀り!!				新聞記事で気になったものを要約し、自分の考えを書く	
	10	新聞記事から深堀り!!				新聞記事で気になったものを要約し、自分の考えを書く	
	11	新聞記事から深堀り!!				新聞記事で気になったものを要約し、自分の考えを書く	
	12	新聞記事から深堀り!!				新聞記事で気になったものを要約し、自分の考えを書く	
	13	新聞記事から深堀り!!				新聞記事で気になったものを要約し、自分の考えを書く	
	14	新聞記事から深堀り!!				新聞記事で気になったものを要約し、自分の考えを書く	
15	新聞記事から深堀り!!				新聞記事で気になったものを要約し、自分の考えを書く		
評価方法	(1)授業の出席状況。 (2)課題の提出や意見の発表・グループワーク等での意欲・態度と内容の理解度。 (3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	課題の提出	◎	◎				20%
	意見発表・グループワーク	○	◎		◎		10%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	言葉(指導法)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	篠崎 省吾		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科 1年						
授業概要	保育士として、人として関わる上で不可欠である「言葉」について学びを深める。具体的には、①グループ内で「言葉」を表現し伝えることを実践すること、②グループ内で推敲した内容を「言葉」で伝えるための留意点・工夫が必要な点について再認識をすることで、保育の現場における子どもたちや現場の職員様とのコミュニケーションを円滑に図ることができることを目指す。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		グループにおいて積極的な協力を実践することができる。	
		○				各学年における発達・能力を把握した上で、その状況に応じた育子案を計画することができる。	
	○					積極的に協力することで、実際の運動会に向けての運営を実践することができる。	
		○					
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目 アイスブレイク・「伝える」「表現する」とは					
	2	1日目 グループに分かれて表現方法・発表の計画を立案、協議					
	3	1日目 グループに分かれて表現方法・発表の計画を立案、協議					
	4	1日目 グループに分かれて表現方法・発表の計画をシュミレーション				シュミレーションを繰り返し、その内容を適宜、修正する。そのことでブラッシュアップを図る。	
	5	2日目 グループに分かれて表現方法・発表の計画をシュミレーション				シュミレーションを繰り返し、その内容を適宜、修正する。そのことでブラッシュアップを図る。	
	6	2日目 計画・シュミレーションの内容を踏まえた各グループの発表				他のグループの内容と自らの内容を重ねることで、今後の課題を明確にする。	
	7	2日目 計画・シュミレーションの内容を踏まえた各グループの発表				他のグループの内容と自らの内容を重ねることで、今後の課題を明確にする。	
	8	2日目 実践に対しての振り返り・反省					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況				◎		20%
	レポート作成		○				30%
	発表への準備と実践の状況	○			○		50%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	児童と環境								
科目名(英)	Children and the environment								
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中山 八保子				
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○				
対象学科・学年	社会福祉科1年								
授業概要	今日、児童と家庭を取り巻く生活環境の変化により、児童を家庭で養育することが困難なケースが増加している。『子どもの最善の利益』を追求するためには、家庭養護、施設養護を含めた社会的養護の基本的理解、社会的支援を受けながら生活している子どもとその家族に介入する際の姿勢、援助が必要になってくる。3年次での児童福祉施設実習に向け、1年次の時点から児童福祉に興味を持ち、感じる力、考える力を身につけ、保育士としての役割、仕事内容を理解していく。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○					社会的養護の基本理念を2つ挙げ、説明することができる。			
	○					家庭養護、施設養護について、説明することができる。			
		○				社会的養護を必要とする児童の気持ちを理解することができる。			
		○				児童福祉施設における保育士の役割を理解することができる。			
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 社会的養護 I								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	自己紹介、科目ガイダンス(社会的養護とは何か)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
		子育てについて(発達、社会状況)、子どもの権利				「こどもの日」にちなんだ新聞記事を読んでおく			
	2	「母の日」について				自分が生まれた時の様子を親に聞いてみる			
		現代社会に暮らす子どもと家庭①(少子化、核家族化、地域とのつながり)				少子化、家族の形態に関する記事を事前に読んでおくこと			
	3	現代社会に暮らす子どもと家庭②(教育、遊び、食の変化)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
		子どもに起こる諸問題(社会的、学校、家庭内での問題)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	4	児童虐待①(現状、定義)				児童虐待に関する記事を事前に読んでおくこと			
		児童虐待②(児童虐待に関する法律、保育士の役割)				児童虐待に関する記事を事前に読んでおくこと			
	5	社会的養護の体系(家庭養護、施設養護)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
		家庭養護(ファミリーホーム)、特別養子縁組について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	6	里親制度について①(里親制度のしくみ、里親の種類)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
里親制度について②(里親の気持ち、里子の気持ち)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
7	施設の形態				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	児童養護施設について①(施設における日常生活について)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
8	児童養護施設について②(保育士の役割について)、まとめ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 正試験を行うので、復習しておくこと				
評価方法	(1)出席率 (2)授業態度 (3)授業終了後、感想を書き、ノートを提出する。(4)正試験(筆記)を実施する。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験						70%		
	小テスト								
	宿題・レポート						10%		
	発表・作品						10%		
	出席率						10%		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。								

科目名	児童と人間関係						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	矢野隆子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科1年						
授業概要	社会福祉士の専門性として、援助者はコミュニケーションの基本的な知識を踏まえ、その応用に習熟し、送って、あるいは受けてとなって、コミュニケーション力を発揮し実践効果が期待できるようになることが望まれる。そのためには、自己理解ができ、他者に対する肯定的な感性とコミュニケーション手法としての傾聴姿勢の重要性を学習する。また、この授業では実際にコミュニケーション場面を体験することで自己理解と気づきを深め、適切な対人行動を実践できることを目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					互いの意志を伝えあう方法を学び、コミュニケーションの概要を説明することができる。	
		○				上手な頼み方、断り方などの効果的コミュニケーションスキルを3つ以上説明することができる。	
		○				聴く、話す、伝える等のスキルを身につけ、応用することができる	
		○				聴く、話す、伝えるなどのコミュニケーションの手法の重要性を説明することができる	
			○			周囲と協力しながら肯定的で円滑なコミュニケーションを実践できる	
テキスト・教材 参考図書	みつわ出版 コミュニケーションスキルアップ検定 人間関係ワークブック						
授業計画	授業項目・内容			授業外学修指示			
	1	科目ガイダンス 教科の目的と授業法 構成的グループエンカウンター					
	2	人間関係 価値観の違いを知る－エクササイズ「クルーザー」					
	3	人間関係 思い込み－エクササイズ「流れ星」					
	4	交流分析による自己理解・他者理解					
	5	コミュニケーションの基本			資料の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	聴き方の基本－カウンセリング・マインドを生かした傾聴					
	7	話し方の基本			資料の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	グループでの会話の基本			資料の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	人間関係 グループワーク－エクササイズ「バスは止まらない」					
	10	アサーション ①相互尊重の自己表現					
	11	アサーション ②上手な頼み方・断り方					
	12	アンガーマネジメント－感情のコントロール					
	13	プレゼンテーション			資料の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	ストローク－ふれ合うことの大切さ					
15	人生態度						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業への参加態度、(ワークシート・ふり返しシート提出) 成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	ワークシート・ふり返し用紙				◎		10%
グループワーク				◎		10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	手話 I								
科目名(英)									
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	井形 美子		
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科 1年								
授業概要	聴覚障がい者は、コミュニケーション問題に始まるが、手話は長い間、好奇と異端の目でみられ、ろう教育現場における手話排除という事情も加わって、聴覚障がいに対する認識は、手話蔑視の思想が先行し、聴覚障がいそのものへの認識が後からついてきた観がある。聴覚障がい者についてを理解し、スムーズにコミュニケーションを図れる事を目指す。								
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
		○				聴覚障がい者と「見ることば」としての手話を学び、手話の特徴を選択することができる。			
	○					聞こえない人の呼称とコミュニケーション手段を説明することができる。			
	○					耳の構造を学び、聴力低下になることと障がいになる原因を説明することができる。			
				○		聴覚障がい者についてを意欲的に配慮することができる。			
			○			手話で自己紹介を表現することができる。			
テキスト・教材 参考図書	「新・手話ハンドブック」三省堂								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	手話を効果的に学ぶために / 授業の際に必要な挨拶の手話表現				テキストを事前に読んでおくこと			
	2	手話とろう者 / 指文字表現				テキストを事前に読んでおくこと			
	3	ろう教育 / 数字手話表現				テキストを事前に読んでおくこと			
	4	聴覚障がい者の生活上の不便な点 / 自己紹介・挨拶の手話表現				テキストを事前に読んでおくこと			
	5	ろう者の職業 / 人間関係の手話表現				テキストを事前に読んでおくこと			
	6	ろう者への情報保障 / 年月・日時の手話表現				テキストを事前に読んでおくこと			
	7	ろう者とのコミュニケーション保障 / 聴覚障害者生活について				テキストを事前に読んでおくこと			
	8	聴覚に障がいがおきる仕組み / 場所の手話表現				テキストを事前に読んでおくこと			
	9	手話の歴史 / 仕事の手話表現				テキストを事前に読んでおくこと			
	10	手話単語の成り立ち / 主な名詞①の手話表現				テキストを事前に読んでおくこと			
	11	聴覚障がい者と接する際の心構え / 主な名詞②の手話表現				テキストを事前に読んでおくこと			
	12	自己紹介表現① 復習				テキストを事前に読んでおくこと			
	13	自己紹介表現② 演習評価				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	14	聴覚障がい者とコミュニケーション手段 / 自己紹介表現③ 趣味の手話表現				テキストを事前に読んでおくこと			
15	感想文作成 / 指文字表現復習 / 正試験出題範囲の説明				授業内容に係る確認テストを実施するので復習しておくこと				
評価方法	(1)手話発表(演習)を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	○				80%		
	小テスト								
	宿題・レポート								
	発表・作品				◎		20%		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験(筆記)の受験資格を与えない。								

科目名	障害の理解						
科目名(英)	syougai no rikai						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	瀧口 直子		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科1年						
授業概要	多様な社会福祉分野において、障害児者とその家族への理解と支援は重要な専門性の一つだと考えている。そこでまず、障害に関する基礎的な知識の習得を目指す。そして、障害や発達のアンバランスがあるために生じる日常生活・社会生活における困難さを、徹底して、本人目線で考えていく。さらに、発達心理や乳幼児心理などの科目とリンクしながら、障害と発達、生活という3つの視点から障害児者を理解できるようになることを目指す。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					主な障害の定義や症状などの概要を理解して説明できる。	
		○				それぞれの症状を理解したうえで、日常生活・社会生活における“本人の生きづらさ”を説明できる。	
		○				それぞれ障害によってもたらされる本人の困り感を理解したうえで、必要な支援・配慮を考えることができる。	
				○		障害がある子どもや大人本人だけでなく、家族や地域・社会の状況についても考える視点を持つ。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション					
	2	「障害」とは…困難さをもって生きる人たち					
	3	障害の理解(1)知的障害・ダウン症					
	4	障害の理解(2)肢体不自由・重症児					
	5	障害の理解(3)聴覚障害					
	6	障害の理解(4)視覚障害					
	7	障害の理解:補講1					
	8	障害の理解(5)発達障害-自閉症スペクトラム障害①					
	9	障害の理解(7)発達障害-自閉症スペクトラム障害②					
	10	障害の理解(8)発達障害-AD/HD					
	11	障害の理解(7)発達障害-学習障害					
	12	障害の理解(8)その他の障害					
	13	合理的配慮が必要な人たち					
	14	障害がある子どもの療育について～「奇跡の人」より～					
15	まとめ						
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	小テスト						
	宿題・レポート		◎		◎		10%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意							

科目名	情報処理 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	岩下 隆司		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科1年						
授業概要	各種提出資料や発表資料を作成できるよう ①入力レベルの向上 ②Microsoft Wordの基本的な操作方法の習得 ③Microsoft とPowerPointの基本的な操作方法の習得						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			ローマ字入力において、10分間に200文字～300文字入力できる。	
			○			Wordを使って、簡単なビジネス文書を作成できる。	
			○			PowerPointを使って、プレゼン用の発表資料を作成できる。	
	○					パソコンの仕組みを理解し、適切に活用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	FOM出版 情報リテラシー入門編						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション(情報モラルとセキュリティ)・入力チェック					
	2	入力チェック・パソコンの仕組み					
	3	入力チェック・キーボードの操作① 漢字かな変換					
	4	入力チェック・キーボードの操作② ショートカットキー					
	5	入力チェック・PowerPointの基本					
	6	入力チェック・アイマスク、車椅子体験発表資料作成					
	7	入力チェック・アイマスク、車椅子体験発表資料作成					
	8	入力チェック・アイマスク、車椅子体験発表資料作成					
	9	入力チェック・Wordの基本操作					
	10	入力チェック・ビジネス文書の作成					
	11	入力チェック・ビジネス文書の作成					
	12	入力チェック・タブ、インデント					
	13	入力チェック・図表を挿入した文書の作成					
	14	入力チェック・表現力をアップする機能					
15	入力チェック・印刷						
評価方法	(1)授業冒頭に10分間入力を実施する。(2)授業内で演習課題を実施する。 (3)PowerPointでアイマスク・車椅子体験の発表資料を作成する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	10分入力文字数			◎	○		40%
	授業内実施課題の提出			◎	○		40%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を付与しない。						

科目名	相談援助演習 I						
科目名(英)	Social Work Exercises I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原ゆり・山下琢也・若狭恵美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科・1年生						
授業概要	相談援助を学ぶに際して、技術的な内容を駆使することも求められる部分ではある。しかし、当事者の心理・状況を理解することにより、今後の相談援助実習につなげる「人間として」の土台を育むとともに、寄り添った実践を行うことができるようにする。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					自身が体験し感じたことを相手に伝えるように発表することができる。	
					○	ソーシャルワークを実践する上で不可欠な、「自身の考えや思いをわかりやすく相手に伝える」ことを実践することができる。	
		○				視覚障害・身体障害等の現状を理解するとともに、当事者の意識を実感することができる。	
				○		自身の身近な身の周りの課題として捉え、当事者の置かれている状況と真摯に向き合うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション・ガイダンス					
	2	アイマスク 基本練習及び体験計画書作成					
	3	アイマスク体験①					
	4	アイマスク体験②					
	5	アイマスク体験③					
	6	車椅子 基本練習及び体験計画書作成					
	7	車椅子体験①					
	8	車椅子体験②					
	9	車椅子体験③					
	10	各体験のまとめ・発表準備(実施グループにて)① PPT					
	11	各体験のまとめ(実施グループにて)② PPT					
	12	各体験のまとめ(実施グループにて)③					
	13	各体験のまとめ(実施グループにて)④					
	14	各体験のまとめ(実施グループにて)⑤					
15	発表						
評価方法	(1)授業に出席するのではなく、「参加」し、積極的な姿勢についてを評価する。(2)授業の内容にそった提出課題とレポートを課すこととし、その内容と提出状況を評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・授業参加度				○		60%
	提出課題	○					20%
	レポート	○	○				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価を受ける資格を与えない。						

科目名	造形表現(指導法)						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	岡山直之		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科・1年生						
授業概要	造形技法の名称と技法の内容を知り、それを使って表現し発表する。そのことを通して技法とその指導法を身につける						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					造形技法の名称とその内容を説明することができる。	
	○	○				造形技法の実技を通してその指導法を応用することができる。	
		○	○	○		造形技法を組み合わせることで作品を制作することができる。	
	○	○		○		制作した作品を他者に説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	技法①フロッタージュ(模様を写し取る)を学ぶ				制作作品をイメージ化しておく	
	2	技法②スクラッチ(ひっかいて描く)を学ぶ				制作作品のイメージを固める	
	3	技法③コラージュ(異素材を貼り合わせる)を学ぶ				作品のイメージを具現化(スケッチ)する	
	4	上記3つの技法をミックスして1つの作品を制作し発表する					
	5	技法④デカルコマニー(対称の模様)を学ぶ				制作作品をイメージ化しておく	
	6	技法⑤ストリングデザイン(糸の模様)を学ぶ				制作作品のイメージを固める	
	7	技法⑥バチック(はじき絵)を学ぶ				作品のイメージを具現化(スケッチ)する	
	8	上記3つの技法をミックスして1つの作品を制作し発表する					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①宿題・レポートを数回実施する ②作品を制作しそれを発表する 以上を下記の観点・割合で評価する						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	○			◎		20%
	発表・作品	○	◎	○	◎		80%
履修上の注意	欠席が3回以上になる場合、単位は与えない。						

科目名	環境(指導法)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	藤崎 博喜		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科 1年生						
授業概要	保育園「ひなた村自然塾」での農作業体験を通して、我々が何気なく過ごしている日常について考える機会を設けるとともに、「食」と「環境」についてを深く学び、私達における将来の行動指針や自然や食のあるべき姿についても深く考え、今後の生き方や育児についての学びを得る。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		自然に触れながら、自ら意欲的に参加することができる。	
	○					講義の課題に対して、自らの考えを積極的に発して議論することができる。	
		○				農作業体験と講義の内容を通して「食」と「環境」について改めて深く考えることができる。	
		○				自らの直がれている「環境」について受けている影響についての学びを深めることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1日目	田植え体験・畑仕事体験				
	2	1日目	田植え体験・畑仕事体験				
	3	1日目	田植え体験・畑仕事体験				
	4	1日目	講義			実体験と講義の内容を踏まえて、別途にレポートを作成	
	5	2日目	稲刈り体験・畑仕事体験				
	6	2日目	稲刈り体験・畑仕事体験				
	7	2日目	稲刈り体験・畑仕事体験				
	8	2日目	講義			実体験と講義の内容を踏まえて、別途にレポートを作成	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中で清書した履歴書を試験のかわりとして評価する。 (2)出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	行事への参加態度				◎		25%
	講義の参加状況				○		25%
	レポートの内容	◎	○				25%
	ディスカッションの状況		○				25%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	健康(指導法)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川原 ゆり		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科 1年						
授業概要	保育において不可欠な「子どもとの関わり方」について具体的な実践方法について「健康」の視点・側面より検討し、その内容を実践する。具体的には、複数学年による「子ども食堂」の運営を通じて実践に向けて学科内のコミュニケーションから準備するとともに、保育学・子どもの発達段階についての見地を鑑みて実際の現場を通じて、子どもたちとの関わりについて経験を積むことで、実践する力を身につける。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		グループにおいて積極的な協力を実践することができる。	
		○				各学年における発達・能力を把握した上で、その状況に応じた育子案を計画することができる。	
	○					積極的に協力することで、実際の運動会に向けての運営を実践することができる。	
		○					
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目	グループに分かれて発表の計画を立案、協議、確認作業				子どもの発達課程について事前に調べておき、その状況にあった内容・課程を検討する。
	2	1日目	グループに分かれて発表の計画を立案、協議、確認作業				事前に各グループにて骨子案を計画、その内容に対して一旦の評価を受けて、再度の計画を立案する。
	3	1日目	グループに分かれて表現方法・発表の計画をシュミレーション				
	4	1日目	グループに分かれて表現方法・発表の計画をシュミレーション				シュミレーションを繰り返し、その内容を適宜、修正する。そのことでブラッシュアップを図る。
	5	2日目	計画・シュミレーションの内容を踏まえた各グループの実践				シュミレーションを繰り返し、その内容を適宜、修正する。そのことでブラッシュアップを図る。
	6	2日目	計画・シュミレーションの内容を踏まえた各グループの実践				他のグループの内容と自らの内容を重ねることで、今後の課題を明確にする。
	7	2日目	計画・シュミレーションの内容を踏まえた各グループの実践				他のグループの内容と自らの内容を重ねることで、今後の課題を明確にする。
	8	2日目	実践に対しての振り返り・反省				
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況				◎		20%
	レポート作成		○				30%
	発表への準備と実践の状況	○			○		50%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	交流ゼミ I					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川原ゆり・山下琢也・若狭恵美	
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	社会福祉科1・2・3年生					
授業概要	社会福祉科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行うことができる。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
				○		積極的な姿勢を持つて、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることが できる。
				○		物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行すること ができる。
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。
			○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。	
テキスト・教材 参考図書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	グループ内の自己紹介・他己紹介				
	2	グループ内でのレクリエーション				
	3	グループ内でのレクリエーション				
	4	グループ内でのレクリエーション				
	5	グループ内でのレクリエーション				
	6	グループ内でのレクリエーション				
	7	社会福祉科「交流会」に向けての準備				
	8	社会福祉科「交流会」に向けての準備				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先である。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験					
	小テスト					
	宿題・レポート					
	発表・作品					
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。					

科目名	人間関係(指導法)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川原 ゆり		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科 1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「人間関係」に関する教育・保育内容に関する内容を、グループ活動の経験をもとに習得する。 ・実体験を踏まえて、自身の経験を子どもの発達における「人間関係」の観点から再考するきっかけを設ける。 ・グループ活動を通して保育・福祉において不可欠な「自己覚知」「他者理解」を行うことで、人間関係の構築と豊かな関わりを経験することで、保育者としての役割について学習する。 						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		グループにおいて積極的な協力を実践することができる。	
		○				他メンバーとの関わりにおいて「自己覚知」「他者理解」の視点から客観的に関わるができる。	
	○					積極的に協力することで、実際の活動に向けての運営を実践することができる。	
			○				
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1日目 交流会①グループに分かれて交流を深める計画を立案、協議			事前にグループ内にて顔合わせを行っておく。		
	2	1日目 交流会① 計画の実践					
	3	1日目 交流会① 計画の実践					
	4	1日目 実践に対するの振り返り・反省			交流会を通しての自己のあり方と他者への関わり方を振り返る。		
	5	2日目 交流会②グループに分かれて交流を深める計画を立案、協議			事前にグループ内にて顔合わせを行っておく。		
	6	2日目 交流会② 計画の実践					
	7	2日目 交流会② 計画の実践					
	8	2日目 実践に対するの振り返り・反省			交流会を通しての自己のあり方と他者への関わり方を振り返る。		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況				◎		20%
	レポート作成		○				30%
	発表への準備と実践の状況	○			○		50%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	生涯スポーツSC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	水上 勝彦		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科 1年						
授業概要	平均寿命の延伸に伴い、一人ひとりのライフスタイルや年齢、体力、運動技能に応じて、生涯にわたり様々な形でスポーツとの関わる機会を設け、スポーツにおける多くの意義と役割を暮らしの中に取り入れることを念頭に置き、生涯を通じて、いつでも、どこでも、誰でも趣味的な観点でスポーツに親しむことができることを目標にする。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		グループやクラス内において積極的な協力を実践することができる。	
	○					健康寿命の考えを念頭に置き、生涯に渡って活動することについて学びを深めることができる。	
	○					スポーツを行う中で、しっかりとコミュニケーションを図ることができる。	
	○					レクリエーションの要素を言めながらの運営を意識することができる学びを得ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目(専門学校実施の体育祭への参加)				体育祭に向けて、クラス内にて団結して準備する。	
	2	1日目(専門学校実施の体育祭への参加)				体育祭に向けて、クラス内にて団結して準備する。	
	3	1日目(専門学校実施の体育祭への参加)				体育祭に向けて、クラス内にて団結して準備する。	
	4	1日目(専門学校実施の体育祭への参加)				体育祭に向けて、クラス内にて団結して準備する。	
	5	2日目(スポーツ競技を通じての関わりを持つ)				特になし	
	6	2日目(スポーツ競技を通じての関わりを持つ)				特になし	
	7	2日目(スポーツ競技を通じての関わりを持つ)				特になし	
	8	2日目(スポーツ競技を通じての関わりを持つ)				特になし	
	9	3日目(生涯健康を念頭に実施することができるスポーツを行う)				特になし	
	10	3日目(生涯健康を念頭に実施することができるスポーツを行う)				特になし	
	11	3日目(生涯健康を念頭に実施することができるスポーツを行う)				特になし	
	12	3日目(生涯健康を念頭に実施することができるスポーツを行う)				特になし	
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況				◎		50%
	レポート作成		○				50%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅰ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	熊谷 妙子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科 1年						
授業概要	社会福祉の原点でもある「相談援助」を行う上で必要なスキルを身に着けること、専門性とは何かを学ぶことを目的とする。自分自身のコミュニケーションの癖や習慣を見つめ、専門職としてどのようにして人と接するかを考察する。また、SNSなどの非対面ではなく、福祉現場に出た際に必須となる対面スキルの向上に向けて、理論と演習を一体とした授業を行う。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
		○		○		人の命や尊厳や人権についての理解を深める	
				○		自分と他社の価値観の違いを理解し、受け入れることができる	
	○	○		○		基本的なコミュニケーションスキルを身に着ける	
	○	○		○		相談援助を行う上で不可欠なチームプレイを重視した動きができるようになる	
テキスト・教材 参考図書	・全国社会福祉協議会 「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程テキスト」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	福祉職員を目指す心構え			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	2	命と尊厳①			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	3	自己覚知 アンガーマネジメント①			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	4	アンガーマネジメント①演習			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	5	相談援助の基本 傾聴①			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	6	傾聴①演習			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	7	少子高齢社会の基本			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	8	グラフから社会情勢を解く			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	9	会話を発展させる コーチング①			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	10	コーチング①演習			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	11	専門職の視点を養う リスクマネジメント①			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	12	リスクマネジメント①演習			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	13	仲間と仕事を深める メンバーシップ①			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	14	メンバーシップ演習			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
15	1年間のまとめ			1年間を振り返り、2年生に活かすこと			
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト	◎	○				50%
	宿題・レポート	◎	◎		◎		20%
	発表・作品	◎	◎		◎		30%
履修上の注意							